

# 国分寺市でのペンシルロケット水平発射実験成功から60年の時を越えてつなぐ想い

新連載

## 私とペンシルロケット



今年、この国分寺の地で、日本初のペンシルロケット水平発射実験が成功してから60年の節目を迎えました。

小さいボディに知恵と技術を詰め込んで飛んだペンシルロケットには、未来の世代に語り継ぎたい歴史と想いが込められています。今号から、当時の実験に関わった方々をはじめ、ペンシルロケットに関わるさまざまな分野の方からのメッセージを紹介します。

記念すべき初回は、国立天文台教授の阪本成一さんです。

### 平和目的に限り進められてきた日本のロケット開発の歴史は、世界に誇り、記憶されるべきもの

### 第1回 阪本成一さん (国立天文台教授)

日本の宇宙科学研究は、小惑星探査機はやぶさやX線天文衛星ASTRO-H<sup>(\*)</sup>など、今でこそ世界最高水準にあります。が、終戦当時にはその気配すらありませんでした。サンフランシスコ講和条約の締結でロケット研究の禁止が解かれたのを受けて、戦後10年と経たずして、戦勝国との大きな技術差と物資の不足に苦しみながらも、糸川英夫博士率いる東京大学の研究チームが選んだのは、構造が単純な固体ロケットの開発で世界に伍すことでした。

その原点が、戦後10年となる1955年の4月に国分寺市(当時は国分寺町。現早稲田実業学校)で行われた、全長わずか23cmのペンシルロケットの水平発射です。ペンシルロケット水平発射成功の流れを汲んだ日本の固体ロケット技術は、「はやぶさ」を打ち上げたM-Vロケットや、小型ながらも先進的なイプシロンロケット<sup>(2)</sup>などで世界の最先端を走るに至りました。軍事転用を意図した他国のロケット開発とは一線を画し、限られた予算の中で平和目的に限り進められてきた日本のロケット開発の歴史は、世界に誇り、記憶されるべきものです。

ペンシルロケットは、戦後日本の復興と高度成長、平和の誓いを今に伝える貴重な史料です。私はその亡失を避けるために所在確認と鑑定を進め、約20機の存在を確認しました。発見された機体の一つは所有者の厚意で国分寺市に寄贈され、折に触れて公開されています。戦後70年を迎え、戦争の記憶が風化しつつある今、日本の宇宙開発発祥の地に住む国分寺市民の皆さんには、この機体をご覧いただき、日本が進むべき道について考えていただきたいと願っています。



#### プロフィール 阪本 成一さん (国立天文台教授)

東京大学大学院理学系研究科博士課程修了。博士(理学)。専門は電波天文学と科学コミュニケーション。国立天文台助教授、JAXA宇宙科学研究所教授を経て平成26年8月から現職。66台のアンテナを組み合わせた世界最大の電波望遠鏡「アルマ」を建設するアルマ計画の中心メンバーであり、日本の宇宙科学技術史の調査も手掛けている。講演・執筆活動、テレビ番組出演などでも活躍。

#### 特別企画

#### 寄贈された機体を特別に展示します

市のペンシルロケット企画展を新聞記事でご覧になった方から「一部が木のペンシルロケットを持っているので見てほしい」と連絡がありました。阪本成一さんが鑑定し、尾翼部分が当時の実験で使用されたことが確認され、4月に行われた市の企画展で展示しました。企画展後も、「日本の宇宙開発発祥の地で多くの方に見てほしい」というご厚意で、市に寄贈されました。この機体を、平成28年1月4日(月)~29日(金)に、市役所市民課ホール(国分寺市観光協会ケース内)で展示します。



<sup>(\*)</sup>X線天文衛星 宇宙から届くX線を観測する衛星。X線は主に数百万度から数億度という非常に温度の高い領域から出る光の一種で、銀河の活動など宇宙の本質を知るために、X線の観測が重要とされている。  
<sup>(2)</sup>イプシロンロケット 高性能と低コストの両立を目指す新時代の固体燃料ロケット。

#### 入手方法

#### ふるさと納税のお礼に 市民の方も申し込みできます

#### ペンシルロケットレプリカを贈ります

JAXA宇宙科学研究所共催・1,000機限定

#### ■申込書での申し込み

- ①左の申込書(コピー可)を切り取って記入し、ハガキに貼り付けるか封書に入れて郵送で〒185-8501財政課へ
- ②A4用紙に貼り付けてFAX(042)325-1380または直接財政課(市役所第3庁舎)へ

#### ■インターネットからの申し込み

ふるさとチョイス <http://www.furusato-tax.jp/japan/prefecture/13214> から※右のQRコードからもアクセスできます

★本市に10万円以上(連続した2年で分割可)のご寄附をいただいた方が対象となります。

★確定申告またはふるさと納税ワンストップ特例制度の申請(以下「確定申告等」)をすることで、寄附金控除を受ける(下表例参照)ことができます。

	給与収入(*1)	全額(*2)控除されるふるさと納税額(年間目安額)	寄附の回数・金額	確定申告等の回数	実質負担額
ケース1	700万円	11万8千円	1回10万円	1回	2千円
ケース2	450万円	5万8千円	2回5万円	2回	4千円

(\*1) ふるさと納税を行う方の家族構成が、独身または共働き(子どもなしまたは中学生以下の子どもがいる場合も含む)の場合 (\*2) 2千円を除く



様式第1号の2 (第4条関係) 国分寺市長 殿 年 月 日

国分寺市寄附金申込書 (ペンシルロケットレプリカ用) ●1,000機限定 ●寄附金10万円以上

私は、国分寺市へ次のとおり寄附を申し込みます。

氏名 (団体名及び代表者名)	ふりがな
住所 (所在地)	〒 -
電話番号・FAX (電話番号)	(FAX)
寄附金額	円 分割寄附(※1) 1回目・2回目
寄附金の使途 (希望するものに○)	①使途を指定しない(市長に委ねる) ⑦教育施設の整備 ②国分寺崖線、樹林地、地下水、湧水の保全等 ⑧公民館・図書館活動など社会教育の充実 ③公園の整備 ⑨歴史遺産の保存・活用 ④子育て施設や環境の整備 ⑩(仮称)国分寺市郷土博物館建設基金 ⑤高齢者の福祉サービス基盤整備 ⑪その他 ⑥障害者の福祉サービス基盤整備
市への応援メッセージ	
市HPでの公表(※2)	氏名 承諾する・しない 金額 承諾する・しない メッセージ 承諾する・しない
お礼の品の送付先	□上記住所と同じ □上記住所と異なる一以下ご記入ください。
住所 (お礼の品の送付先)	〒 -
名前	ふりがな 電話番号

寄附金控除に係る申告特例申請書(ふるさと納税ワンストップ特例制度)を希望する場合は右欄に☑をしてください。

個人情報は、寄附内容についての市からの問い合わせ、寄附金納付書及び受領書の送付、寄附金控除に係る申告特例申請書、並びにお礼の品を希望された場合はその送付のために使用します。上記目的以外に使用されることは一切ありません。

(※1) 分割寄附の注視点 分割寄附の回数は、2回までとします。/寄附金額は1回あたり1万円単位とします。/2回目の分割寄附の期限(以下「期限」といいます。)は、1回目のご寄附の翌年12月までとします。/1回目のご寄附に対しては、お礼の品を受け取ることはできません。ただし、期限に達するまで、ペンシルロケットレプリカを確保します。/期限内に寄附金額が10万円に満たない場合は、その期限内に他のお礼の品に代えて申し込むことができます。

(※2) 未選択の場合は、匿名希望とします。

→市政戦略室(内441)